

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	広島大学	整理番号	1813
プログラム名称	ゲノム編集先端人材育成プログラム		
プログラム責任者	津賀 一弘	プログラムコーディネーター	山本 卓

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>〔総括評価〕</p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、本プログラムの実施の中で11研究科を4研究科に再編し分野横断研究推進の体制とし、卓越大学院・大学院リーディングプログラム機構副機構長の教育担当理事が中心となり、改革を推進する体制を設け、5年一貫博士課程の検討など大学院改革を牽引している。また、KPIは論文発表数、高評価雑誌掲載など研究業績は高く、指標はすべて達成しているが、指標そのものが低いことが懸念された。補助期間終了後のKPI指標は高いものに改善され、評価委員会のシステムが整備された。プログラムが継続発展できる支援体制も具体的であり、カリキュラムにELSI科目を加え、ゲノム編集における社会実装の視点での教育にも尽力している。プログラムが実施している修了生へのアンケートの回答率は100%を示し、学生の声をよく把握し、改善に反映されている。一方で、インターンシップを含む留学経験をもつ学生や留学生数などが少ないことから、経済的支援も含めた国際競争力の向上のための環境整備に一層の工夫と努力が必要である。また、海外との連携に関しては、ゲノム編集という知財上特殊な領域であるとしてもさらに一層の努力が求められる。</p> <p>修了者の成長については、4研究科連携による教育がうまくなされており、KPIも良好である。優秀な研究者を国内外研究機関、民間企業に輩出しており、就職先から見て優れた修了生が育っているとみなせる。</p> <p>キャリアパスの構築については、獲得・育成・キャリアパス支援等の体制が整っており、ゲノム編集技術を核に分野を広げている。研究者としてのロールモデルを紹介することで、学生にプログラムが育成する人材像を具体的に示している点は評価できる。一方、研究機関に興味がある学生が多く、なかなか民間へのキャリアパスが開けないように見える。プログラムの中でキャリアパスの可能性を開拓する必要があるのではないか。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、11研究科の4研究科への再編や教育担当理事を中心とした改革推進体制の設置、5年一貫博士課程の設置検討等、本プログラムが大学院改革を牽引している。プログラムが継続発展できる支援体制および複数の評価委員会の継続も具体的であり、計画に沿ってプログラムが実行され、成果を上げている。</p>